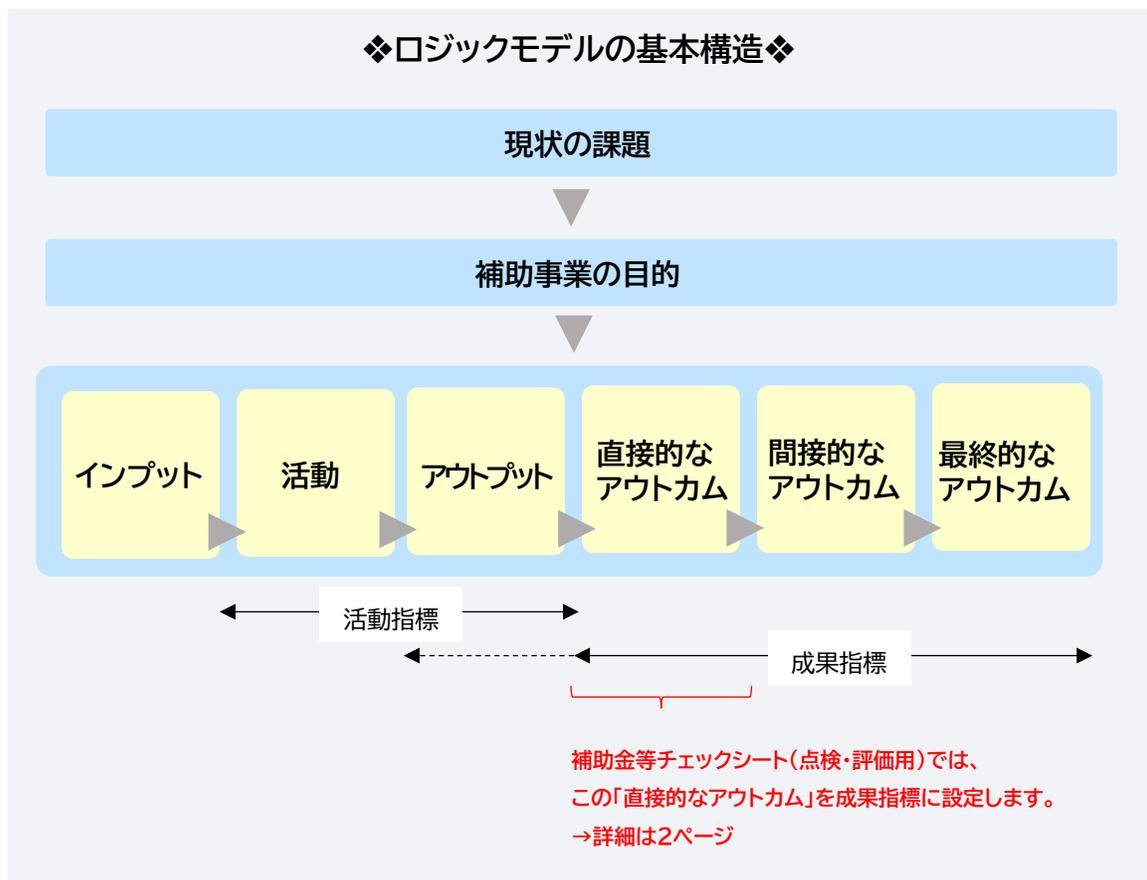


成果指標を設定する際には、「ロジックモデル」を作成することで、各段階の達成状況がわかる評価指標の設定が容易になります。

【ロジックモデルとは】
政策課題とその現状に対し、
政策手段から政策目的までの経路(ロジック)を端的に図示したもの



ロジックモデルの各構成要素の定義

| 構成要素 | 定義 |
|------------------|---|
| 補助事業の目的 | 補助要綱上の事業目的 |
| インプット | 投入する資源(ヒト・モノ・カネ) |
| 活動 | 事業の実施内容 |
| アウトプット | 当該事業を通じて直接産出される実績 |
| 直接的なアウトカム | 当該事業の実施を通じて期待される変化 ※アウトプットから直接的に影響を受ける変化 |
| 間接的なアウトカム | 当該事業の実施を通じて期待される変化 ※他事業や他要因の影響を受けた複合的な変化も可 |
| 最終的なアウトカム | あるべき姿、最終的に目指すべき姿、社会的な影響 |

ロジックモデルの作成手順

ロジックモデルの作成は、大まかに以下の4ステップを踏みます。

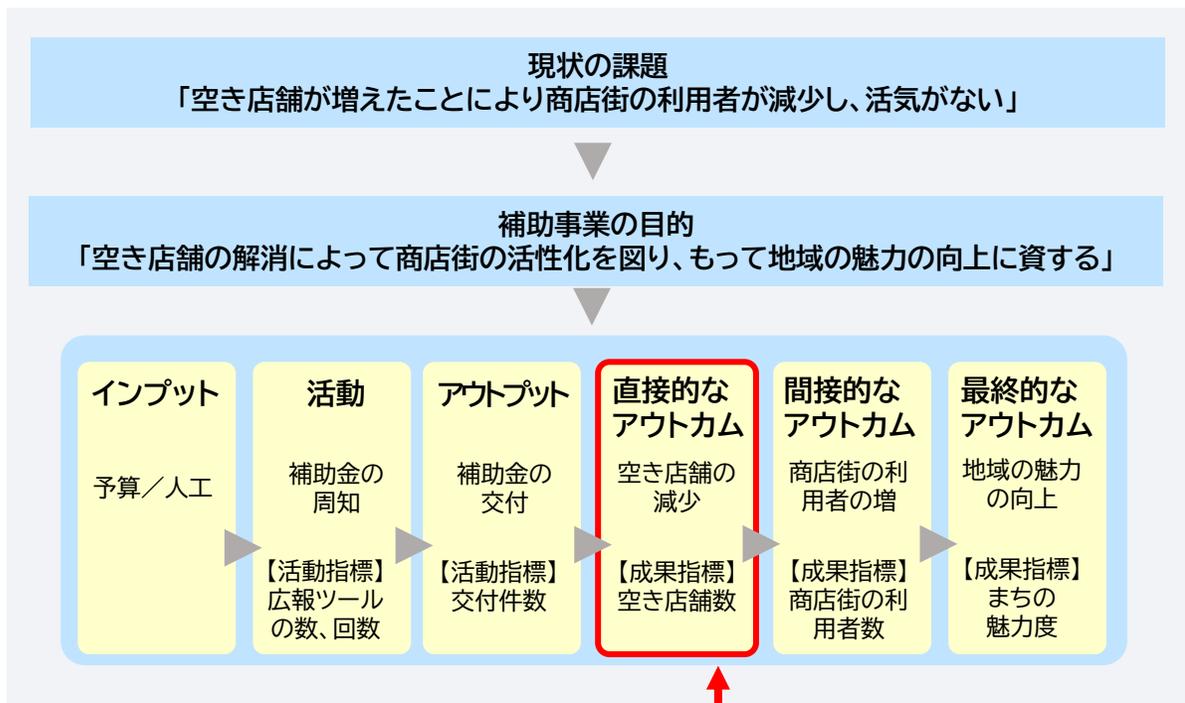
1. 「現状把握」・「課題」の吟味
いきなり手段検討やデータ分析を行うのではなく、まずは課題の精緻化(何が課題か?)や目的(どんな変化を起こしたいのか?)を吟味します。
2. 「インプット」→「活動」→「アウトプット」→「アウトカム」の流れの検討
次に、論理的なつながり(ロジック)を検討し、明確にします。
3. 「アウトプット」・「アウトカム」を測る指標の設定
アウトプットやアウトカムを適切に把握できる指標を設定します。
4. ロジックと指標の再吟味
改めて両方向からロジックを確認し、指標の内容を吟味・調整します。

成果指標の設定マニュアル

ロジックモデルの作成例 ～空き店舗入居者助成金の場合～

【補助金のロジックモデル】

補助金事業は、補助交付先の活動支援を目的化するのではなく、補助によって補助交付先のどのような活動を促進し、その結果として、市や市民にどのような改善・変化が与えられるかを見据えることが重要です。

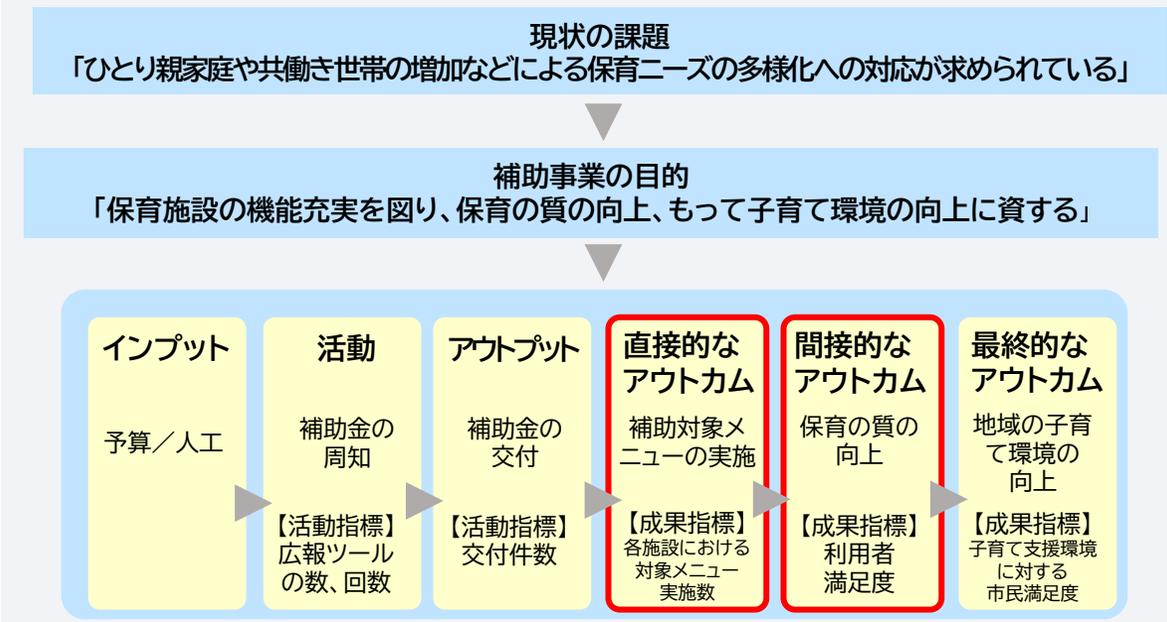


補助金等チェックシートにおける成果指標の設定

補助金等チェックシート(点検・評価用)では、
原則として、「**直接的なアウトカム**」を**成果指標**に設定します。

ただし、これにより難しい場合は、別の指標を設定することも可能とします。

「直接的なアウトカム」以外も設定する例 ～私立保育所等機能充実補助金の場合～



左の例では、シャッターが閉まっている空き店舗がなくなり、営業を始めるだけで、店舗の利用者がいなくとも、一定商店街の活性化にはつながります。

しかし、上の例では、補助金の活用により、保育施設が対象メニューを拡充したとしても、ニーズに合致せず、利用者がいなければ、補助事業の目的に資することができません。このような場合は、「直接的なアウトカム」だけでなく、「間接的なアウトカム」も含め、成果指標に設定することが適切です。

数値が改善することで、市や市民が、「よかった！」と思える指標を成果指標に設定することがポイントです。

※「直接的なアウトカム」や「間接的なアウトカム」いずれも設定が困難な場合は、「アウトプット」や「最終的なアウトカム」での設定も可能とします。